



Title	[7]休・退学,留年者の実態調査(I主要業務)
Author(s)	
Citation	長崎大学保健管理センター概要 . vol.9, p.103-108; 1998
Issue Date	1998-11-02
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10069/5294">http://hdl.handle.net/10069/5294</a>
Right	

This document is downloaded at: 2018-12-19T14:07:13Z

〔7〕休・退学，留年者の実態調査

1) 休学

休学届出理由と精神疾患調査（学年別）

学年	理由 性別		経済的理由		進路再検討		留学・研修		病 気		家庭の事情		一身上の都合		計		総 計 (%)	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
1				7	6								1	4	3	11	10	21 (14.9)
2	1			6	1	1	1		2				1	7	5	17	8	25 (17.7)
3	2			2	1	6	2		3	2				2	2	15	7	22 (15.6)
4	15	1		10	1	5	1		2	1		5	1	19	6	56	11	67 (47.5)
5														1	1	1	1	2 ( 1.4)
6						1				1				1	1	2	2	4 ( 2.8)
計	18	1		25	9	13	4		7	4		5	3	34	18	102	39	141 (100 )
総計(%)	19	(13.5)		34	(24.1)	17	(12.1)		11	(7.8)		8	(5.7)	52	(36.8)	141	(100)	
分 類	A	1		1					3	4				5	4	10	8	18 (12.8)
	B			2					1					5	4	8	4	12 ( 8.5)
	C	17	1		21	9	13	4		3		5	3	22	9	81	26	107 (75.9)
	D				1									2	1	3	1	4 ( 2.8)

- 分類  
 A……精神障害の診断がつく  
 B……精神障害の疑いあり  
 C……精神的に問題なし  
 D……不明又は，未調査

休学者数は、ここ数年来毎年90名前後であったが、今年度は50名ほど増加しており1.5倍となった。全在生数に対する休学率をみても、1%強から1.8%と2%に近くなった。理由別では、一身上の都合による者が最も多くなった。次に進路再検討，経済的理由と続いている。病気を理由として届けられたもの11名中8名が何らかの精神的問題を抱えていたほか、一身上の都合として届けられた中にも精神的問題を抱えていたと考えられるものが18名(34.6%)存在した。これまでは不明または未調査が40%近くあったが、今年度は関係者の協力により3%程度に減らすことができた。その結果、これまで未調査または不明となっていたものの大半は、精神的に問題なしと判断されるものであったが、昨年度より何らかの精神的問題を抱えるものが10%台から20%台へ増加した。学年別ではほぼすべての学年で増加しているが、4年生での増加が2倍近くと目立っている。

休学届出理由と実態調査結果

届出理由 実態	経済的理由		進路再検討		留学研修		病 気		家庭の事情		一身上の都合		計		総 計 (%)
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
経済的理由	15	1									2	1	17	2	19 (13.5)
進路再検討			21	9					3	2	15	5	39	16	55 (39.0)
留学研修					13	4							13	4	17 (12.1)
留 年	2										4		6		6 ( 4.3)
学 業 不 振											2	3	2	3	5 ( 3.5)
病 気	1		1				7	4			6	5	15	9	24 (17.0)
家庭の事情									2	1	1	2	3	3	6 ( 4.3)
意 欲 低 下			3								4	1	7	1	8 ( 5.6)
そ の 他												1		1	1 ( 0.7)
計	18	1	25	9	13	4	7	4	5	3	34	18	102	39	141 (100 )
総計(%)	19 (13.5)		34 (24.1)		17 (12.1)		11 (7.8)		8 (5.7)		52 (36.9)				

■ 届出理由と実態が同じのもの。

届け出理由として最も多かった一身上の都合を実態で見ると、理由は多岐に及んだが、進路再検討、病気の2項目で半数以上を占めた。実態からみると、昨年度に続き進路再検討のための休学が最も多かった。実態のどの項目も増加していたが、病気による休学の増加が若干目立つ程度であった。

病気休学

学 年	入学年度	性 別	診 断 名
1	H 9	男	精神分裂病
2	H 8	男	器質性妄想性障害
3	H 7	女	心的外傷後ストレス障害
3	H 7	男	人格障害
3	H 7	女	反復性うつ病性障害
4	H 6	女	精神分裂病
4	H 6	男	精神分裂病
4	H 6	男	持続性妄想性障害
4	H 4	男	精神分裂病疑い
4	H 4	男	うつ病
6	H 3	女	精神分裂病

病気休学として届けられた者11名全て、精神的疾患ないしその疑いであった。

退学届出理由と精神疾患調査（学年別）

理由 性別 学年	進路変更		経済的理由		就 職		大 学 院 と び 入 学		除 籍 授 業 料 未 納		学 業 不 振		家 庭 の 事 情		病 気		死 亡		一 身 上 の 都 合		計		総 計 (%)
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
1	5	7		1	1														2	1	8	9	17 (15.5)
2	4	3							1										1	3	6	6	12 (10.9)
3	4	1			1				3								1		1	1	10	3	13 (11.8)
4	21		1		7	1			10	5	2						1	1	17	2	64	4	68 (61.8)
5																							0
6																							0
計	34	11	1	1	9	1		1	14	5	2						2	1	21	7	88	22	110 (100)
総計(%)	45 (40.9)		2 (1.8)		10 (9.1)		1 (0.9)		14 (12.7)	5 (4.5)	2 (1.8)			0			3 (2.7)		28 (25.5)		110 (100)		
分 類	A																1		2		3		3 (2.7)
	B	1								1							1		1		4		4 (3.6)
	C	29	11	1	1	8	1		1		2						1		18	5	59	19	78 (70.9)
	D	4				10				5	4								2		25		25 (22.7)

退学者数に大きな変化はなく、全在生に対する退学率は1.4%であった。今年度は各学部の協力により不明または未調査の割合が少なくなったが、退学学生の中で何らかの精神的問題を抱えるものは6.3%と昨年度を下回った。休学者の場合とは異なり予想に反する結果であった。

退学届出理由と実態調査結果

届出理由 実態	進路変更		経済的理由		就 職		大 学 院 と び 入 学		除 籍 授 業 料 未 納		学 業 不 振		家 庭 の 事 情		病 気		死 亡		一 身 上 の 都 合		計		総 計 (%)	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
進路変更	28	11																	14	5	42	16	58 (52.8)	
経済的理由			1	1					1										2		4	1	5 (4.5)	
就 職					7	1							1						1		9	1	10 (9.1)	
大学院とび入学							1															1	1 (0.9)	
授業料未納	1								12												13		13 (11.9)	
学 業 不 振	2				2				1		4								3		12		12 (10.9)	
家庭の事情													1								1		1 (0.9)	
意欲低下	2										1										3		3 (2.7)	
病 気	1																		1	2	2	2	4 (3.6)	
死 亡																		2	1		2	1	3 (2.7)	
計	34	11	1	1	9	1		1	14		5		2					2	1	21	7	88	22	110 (100)
総計 (%)	45 (40.9)		2 (1.8)		10 (9.1)		1 (0.9)		14 (12.7)		5 (4.5)		2 (1.8)		0		3 (2.7)		28 (25.5)					

■ 届出理由と実態が同じもの。

実態としてみた退学理由のほぼ半数が進路変更であった。実に全在学生の0.7%が進路変更を理由に退学したことになる。届出理由として、学業不振、経済的理由、病気などが進路変更や一身上の都合として届けられていたが、それほど多くはなかった。一方、一身上の都合として届けられたものの大半が実態としては進路変更によるものであった。

病気退学

学 年	入学年度	性 別	診 断 名
2	H 8	女	摂食障害疑
3	H 7	男	心身症
4	H 6	男	精神的問題による不登校
4	H 6	女	自律神経失調症 睡眠障害疑

死 亡

3	H 7	男	自殺（縊首）
4	H 6	男	交通事故
4	H 6	女	自殺（薬物）

3) 留 年

通算3年以上の留年者数と精神疾患調査

	平成7年度		8年度		9年度	
	学年次	人数	学年次	人数	学年次	人数
教 育	4年	4名	4年	3名		
経 済	4年	2	4年	2	4年	6
医	3年	6	3年	4	3年	5
	4年	1	4年	1	4年	5
	5年	1	5年	1	5年	1
	小計	8	小計	6	小計	12
歯	4年	1	3年	1		
	小計	1	4年	1	小計	2
薬			4年	1	4年	1
工	4年	48	4年	42	4年	39
水	4年	1	4年	1	4年	1
医 短					3年	1
計	64名		57名		60名	
留 年 率	0.9%		0.8%		0.8%	
分 類	A	3名 4.7%	4名 7.0%	2名 3.3%		
	B	1 1.6%	2 3.5%	1 1.7%		
	C	9 14.1%	1 1.8%	14 23.3%		
	D	51 79.7%	50 87.7%	43 71.7%		

平成8年度の保健管理センター概要の中で平成7年度、8年度の通算3年以上の留年者数と精神疾患調査に一部誤りがあったので訂正したものを今回掲載した。